

## 電車の中で

ある日、電車に乗っていたときの事です。

電車が駅に着いて、男性が乗り込んできました。それほど混雑していなかったのですが、たまたま男性が肩から掛けていたバックのベルトがドアにはさまり、バック本体は電車の外に出た状態でドアが閉まってしまいました。男性は、懸命にドアをこじ開けようとしますが、開きません。そのうち、電車は走り出してしまいました。

男性は、バックのベルトをつかんだまま、車外に出ているバック本体を心配そうに見つめ、そして、「困ったな」という様子で、車内の乗客の視線を感じて恥ずかしそうにしていました。

そのとき、ドア付近で、友だちとおしゃべりをしていた高校生の一人が、「車掌さんに知らせに行つて来ます。」と男性に声をかけて、電車の後方へと向かって行きました。

電車は次の駅に着きましたが、駅のホームはバックのはさまったドアとは反対側で、バックははさまったままです。すると、「ただいま、車両点検をしていますので、発車までしばらくお待ちください。」と車内放送が入り、すぐに高校生と車掌さんが駆けつけてくれました。

車掌さんが手際よくドアを操作すると、バックのはさまったドアが開きました。

「お客様、お荷物は大丈夫ですか、大変ご迷惑をおかけしました。」と車掌さんは男性に声をかけるとともに、車内の乗客に向かって、「お客様には、お急ぎの所、出発が遅れまして大変申し訳ありません。」と謝りました。

男性も、高校生と車掌さんにお礼を言うとともに、周りの乗客に頭をさげました。しばらくして、出発が遅れたことへのお詫びの車内放送が入り、電車は発車しました。

高校生のおかげで、困っていた男性だけでなく、周りで「どうしよう、大丈夫かな。」と心配していた乗客までが、ほっとした様子で心あたたまる気持ちになれました。

私は普段から、かたまって大声で騒いだり、混雑していても大きな荷物を通路に置いたりする電車内での高校生等のマナーが気になっていました。しかし、心配そうに見ていたけれどなかなか行動できなかった私とは違い、躊躇なく、とっさに行動したこの高校生の姿から、自分自身が、「最近の高校生は・・・」というマイナスのイメージで、しかも、ひとくくりに見ていたことの誤りに気づかされました。

今回のように、何の迷いもなく、一歩踏み出して行動できる高校生の姿は、「周りはどうだろう」と周囲の目を気にしながら行動しがちな私にとって、「目の前の困っている人をほっとけへん」という自分の素直な気持ちにしたがうことの大切さを考えさせられる出来事でした。